

宮城県立聴覚支援学校 情報教育部
(MIYAGI School for Deaf) + (J)**MSDJ 通心** 2023.7.21
なんでも情報誌!

文責：大槻浩義



あの頃は(1983年)、

ジャンプするだけの

マリオで十分だった!!

**Society 5.0 社会の到来**

「情報活用能力」と「ICT を活用した学習活動」

7月15日、1983年7月15日に発売されたスーパーマリオでお馴染みのファミリーコンピュータ（通称ファミコン）が今年で40周年を迎えました。また、その数年前（1978年）は、どこの喫茶店にも置かれていた「インベーダーゲーム」が登場しています。私としては、100円を投入しゲームが始まるこちらの方が馴染み深いのですが、これを懐かしんでいる方は還暦を迎えたく限られた世代であると思いますが、いかがでしょうか。と言うのも、IC（集積回路）の技術の進歩はすさまじく、インベーダーゲームはすぐに化石と化してしまい、短命でした。



今後の世界は「Society 5.0 社会」を迎えるとされています。これに対して、かの言うファミコンやインベーダーゲームは、「Society 4.0 情報社会」の産物と言え、当時のゲーム機と現在とでは、全く次元の違う代物だと言うことから分かります。今後はさらに発展していくことでしょう。ちなみに Society 2.0 は農耕社会で、Society 3.0 は工業社会を指しています。



今回の新学習指導要領改定の背景には、この Society 5.0 社会の到来を見据えていることを見逃すことはできません。特に、情報活用能力の育成は目玉と言えるのではないのでしょうか。なにしろ子どもたちの未来は、ビックデータやAIが社会に影響を及ぼす新たな社会と言われているからです。

■ 「情報活用能力」

「情報活用能力」を文科省は次の3点で説明しています。

「A 情報活用の実践力」・「B 情報の科学的理解」・「C 情報社会に参画する態度」。インターネットで情報を収集し文書処理等ができて、プログラミングをとおしてコンピュータの仕組みを理解し、これらを活用する上で情報モラルをそなえていること。

■ 「ICT を活用した学習活動」

ICT を活用した学習とはどんな場面を想定しているか、次の「A 一斉学習」・「B 個別学習」・「C 協働学習」の3つに分類されています。特に「C 協働学習」については前々回の MSDJ 通心(No.18)でもお話ししたとおり、苦手意識を持った先生方が多いようです。

■ 本校の ICT 資産

GIGA スクール構想によって整備された本校の ICT 資産は表のとおりですが、特に令和5年度から導入された2つのクラウドサービスは、これまでの学習形態に変化をもたらし、より発展的な学習活動の可能性を広げるものでしょう。

<本校の ICT 資産>

[令和4年度まで]

- ①全教室プロジェクター設置
- ②生徒用端末のインターネット接続・校内サーバー構築
- ③担任・生徒への iPad 配置
- ④iPad によるインターネット接続
- ⑤アップル TV によるミラーリング機能
- ⑥遠隔授業の環境整備

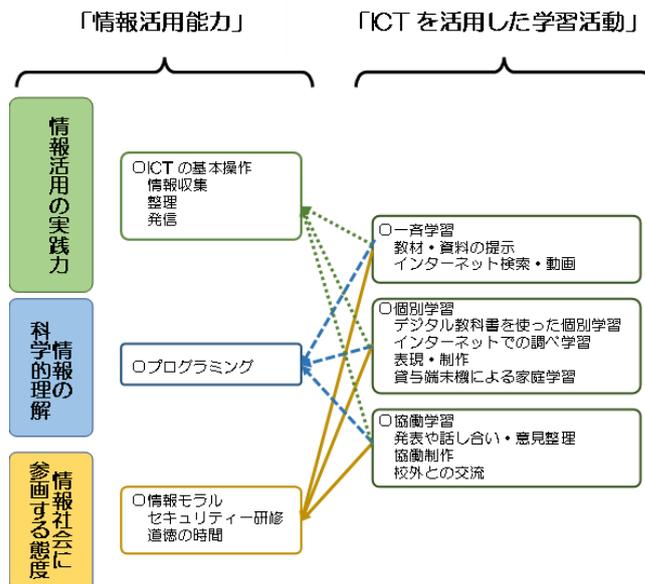


[令和5年度]

- ①教員1人1台 iPad 配置
- ②外部サービス（クラウドサービス）の構築
 - ・Microsoft Office365 (@iz.myswan.ed.jp)
 - ・Google Workspace (@gs.myswan.ed.jp)
 校務系 PC と生徒系 iPad の間で、データの相互乗り入れが可能となった。

また、これまで県内外の学校とのインターネットを利用した交流会等で得た「人的ネットワーク」も、ICT 資産として加えることができる。

このような情報活用能力と学習活動は、下記のような関係性になると考えられます。



今回は、「本校の ICT 資産」と「ICT を活用した学習活動」との関連についてももう少し具体的に考えてみたいと思います。

7/21（金）は、夏休み前最後の授業でした。中学部会では、スマホの利用を含め、夏休みの過ごし方のお話がありました。



8/24（木）には元気に再会しましょう。

参考資料:(文科省 GIGA スクール実現の全体概要参照)
(内閣府 HP 参照)